

## 【地域の現状について】

- ・未だ、天災、風害、大地震の対策がないので未定。
- ・地域のふれあいがないと意見がまとまらない。
- ・指定避難所の小学校には道幅が狭く大型トラックが通行できない（入れない）。支援物資の受け入れはどのようにすればよいか。
- ・町内なので、どこまでどんな被害が出るか検討がつきません。
- ・復興については何も検討（会議）していない。今後検討する。今日の津久見・佐伯の防災士の活動時状況。
- ・防災避難訓練は毎年実施するが、復興に際して、地域自治体、警察、消防、医療、自衛隊との連携などはよくわからない。被災後のボランティアの受け入れは誰が、いつ、どのように実施するのか？
- ・避難所開設訓練を初めて行った。復興まではほど遠い。

## 【被災・復興のイメージについて】

- ・南海トラフのような大きな（全国的な大災害）が起きた場合に資源（ヒト・カネ・モノ）が大分にきちんと配分されるか？近畿地方、中部地方、四国の後回しにならないか？不安。
- ・津波で臨海工業地帯が壊滅的な被害を受けた場合、現在の九州第二位の工業県までの復旧・復興がなされるのか？不安。
- ・復興のためには復元力のある街づくりを考える必要があると思います。
- ・被災して時間がたっても心の災害、地域住民との心の復興は時間がかかる。被災してない地域であっても、いつ我が身にふりかかるかわからないとの意識をもつことが大事と思う。
- ・高齢だが、復興のための手助けができる内容があるのかどうか。
- ・継続的な報道→継続的な支援につながる

## 【復興費用について】

- ・あまりに災害が多発しており、復興のための義援金が集まらなくなっていると思います。
- ・自治体の力、公的力が必要（予算を含めて）

## 【行政・自治体との連携】

- ・透析患者など特別な医療を必要とする障がい者への継続的な支援。
- ・優先順位、ライフラインの復旧。
- ・行政のサポート。
- ・被害状況の詳細な把握。

## 【ボランティアの支援が必要】

- ・継続的復興支援がない。津久見は今も災害ボランティアを募っていることを多勢は知らないと思う。
- ・ボランティア活動に参加していきたい。
- ・一人でできることではない。みんなで協力（ボランティアなど）してほしい。その為にはいつも近所の人と仲良く話しかけ大切！！
- ・たくさんのボランティアの方の応援を必要とする。
- ・ボランティアを含め多人数となる。予算。
- ・津久見のボランティアで側溝の泥出しを3日行った。言われた事は何でもするが、これは行政の範囲ではないか。自宅近くの側溝も設置してから、掃除していない。町内市内で一斉に（年1回でも）やってはどうか。

- ・ 共助・公助・ボランティア。メディアの放送で継続して欲しい。（要望）
- ・ ボランティア活動に依存している為、人が集まりにくい。手当の方法を検討して欲しい。